

令和6年度
札幌コンサートホール
事業報告書

公益財団法人 札幌市芸術文化財団

目 次

I	管 理 業 務 の 実 施 状 況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	管 理 業 務 に 係 る 収 支 決 算・・・・・・・・・・・・	16
III	管理に関する協定書 第34条に規定する自主事業の実施状況・・	17

I 管 理 業 務 の 実 施 状 況

1 統括管理業務

▽ 管理運営に係る基本方針の策定

今期指定管理より財団の中期経営計画を定めるとともに、当ホールの管理運営については次の6つの基本方針を策定している。

- ①「質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供」
- ②「誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールへ」
- ③「札幌の音楽文化の未来を見据えた育成、支援」
- ④「他分野との連携を広げ、札幌の音楽文化をあらゆる分野へ」
- ⑤「利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供」
- ⑥「安心・安全で、持続可能な社会に貢献できる施設運営」

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

- ▼ 「札幌市の公の施設として、公平性を重視した運営を行う」という方針を策定し、条例・規則等に基づく公正な利用申込機会の提供や、音楽専門家などの学識経験者も含む貸館審査委員会による公平・公正な審査を実施した。
- ▼ 施設申込は、公平性を重視した一斉受付を行う他、先着順による随時受付に移行後は、ホームページで空き状況を公開し、平等かつ公平な利用機会を提供した。
- ▼ 札幌市の音楽文化の振興、発展のために重要とみなされ、市民の要望の強いアーティスト等の公演や、長期間の準備期間が必要となる公演については、一般利用に先立っての申請が可能な制度に従い、貸館審査委員会に諮り対応した。
- ▼ 不当な差別的取扱防止のための取組として、オンライン動画を活用した職場内研修を実施して合理的な配慮に関して学ぶとともに、大ホール公演時にはダイバーシティ要員として1名のレセプションニストを追加配置し、日々の公演においても障がいのある方に対する配慮に取り組んだ。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

- ▼ エネルギー管理標準（平成18年制定、令和3年改訂）の規定に基づき、省エネルギーに取り組んでいる。省エネルギー推進委員会を設け、定期的に省エネルギー推進活動の検討を行っている。
- ▼ 令和4年度に変更した北海道電力との需給契約電力(高圧)を1000KWで維持し使用電力の低減に努めた。
- ▼ 設備委託業者の業務日誌などで使用量を日々確認し、省エネルギー化の推進を行っている
- ▼ 札幌市環境マネジメントシステムに則り、各種報告を行った。

- ▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）
 - ▼ コンサートホール事業部長（支配人）を施設の統括責任者として配置している。また効率的な運営を行うため、責任体制の明確化を図るとともに、事業の特性を考慮した職員配置を実施している。
 - ▼ 人事異動などにより変更となった業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。
 - ▼ 基礎的、専門的な知識の向上のため以下の職員研修を実施、また、外部団体主催研修に職員を派遣した。
 - ・ 4～6月 新採用研修、コンプライアンス研修
 - ・ 5月 普通救命講習
 - ・ 9～10月 クラシック研修
 - ・ 9～10月 コンプライアンス研修
 - ・ 9～11月 パソコン研修（Excel）
 - ・ 11月 甲種防火管理新規講習
 - ・ 11月 不当な差別的取扱や合理的配慮に関する研修
 - ・ 12月 管理職マネジメント研修
 - ・ 1月 ホール運営知識向上研修
 - ・ 2～3月 情報セキュリティポリシー研修
 - ・ 3月 ビジネスマナー研修

- ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組
 - ▼ 火災などの災害に迅速に対応できるよう、年2回の防災訓練を実施するほか、危機管理マニュアルの見直しをすすめ、ミサイルの飛来等の対応を更新した。
 - ▼ 財団内 LAN によるグループウェアを活用し、事業部内、さらに財団全体で情報を共有している。また、財団共用の予算執行、決算管理等経理システムにより、経理事務を効率化し迅速な処理を行っている。
 - ▼ コンサートホール単独のグループウェアも併せて活用し、職員のほか委託業務スタッフ（清掃、警備、設備、舞台、レセプションист）にも公演やホール内施設の詳細な情報について連絡事項の共有を図っている。接客の際に必要な細やかな情報が共有できるようにグループウェアの様式の更新を行っている。
 - ▼ 朝礼の実施により、係ごとの業務連絡など日々の最新情報をホール職員内で共有できるよう取り組んだ。
 - ▼ 役職者会議や各係会議を定例的に開催し、業務の進捗を確認するほか、ホールの諸課題についても検討を進め、改善に取り組んだ。
 - ▼ 防火管理委員会および危機管理検討委員会を定例的に開催し、防火・防災管理の向上に取り組んだ。

- ▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

- ▼ 施設の安全運営に努め、専門技術・資格・経験を持つ人材を確保した。委託の際には、施設の安全と快適な利用に繋がるよう努め、委託者・受託者側双方に責任者を置き、監督と履行確認を行った。

再委託を行うにあたっては、指定管理の協定書に基づき札幌市の承認を受け実施した。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

開催回	協議・報告内容
第1回 令和6年 7月3日	・令和5年度事業報告 ・4月～5月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・第25代専属オルガニストの決定 ・施設見学会の開催 ・Kitara ギャラリー『The PMF Cycle』
第2回 令和6年 9月18日	・4～8月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・2024Kitara アルザスワインの販売 ・Kitara ギャラリー『マイ・ガーデン』（札幌芸術の森美術館・連携事業） ・オルガニスト CD を初めてストリーミング配信 ・鑑賞マナー啓発動画のエンタランス上映
第3回 令和6年 12月26日	・4～11月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・施設利用料金の値上げ ・演奏会付き防災訓練の実施
第4回 令和6年 3月19日	・4～2月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・演奏会付き防災訓練の実施 ・施設見学会の実施
<協議会メンバー> ・地 域：豊水地区連合町内会会長 ・利用者：キタラボランティア代表、オルガニスト、ピアニスト、音楽事務所代表 ・行 政：札幌市市民文化局文化部長 ・指定管理者：札幌コンサートホール支配人（コンサートホール事業部長）	

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (7月24日)	(1) 各施設の重点取組事項について (2) 使用料手数料、基準管理費用（プラザのみ）の調整状況について (3) 予算編成時における文化部との連携について (4) 札幌市文化芸術基本計画について（報告） (5) 文化芸術施設改修工事等予定について (6) その他
第2回 (1月22日)	(1) 今年度の予算執行見込みと事業実施状況 (2) 次年度の事業展開について (3) その他協議事項 ・テラスレストラン Kitara の都市公園使用料について ・レセプション料金、舞台技術料金の改定について ・R10 年度予定の Kitara 改修工事の検討状況の進捗、改修工事時期の見通し (4) 文化部協議事項 ・令和7年度札幌コンサートホール関係予算の概要 ・利用料金改定の概要

▽ 財務（資金管理、現金の適正管理）

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 現金や預金通帳及び印鑑、金券類は、分任出納員による厳格な管理を行い、内部監査などで定期的な確認作業を行っている。
- ▼ 現預金の入出金については、複数の職員による確認を実施し、不適切な処理が行われないよう厳しくチェックを行った。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情については速やかに報告書を作成、ホール内で対応策を検討し、職員への周知を徹底した。また、札幌市の所管課に相談する必要がある要望や苦情があった場合は速やかに所管課に相談するとともに指示に従った。
公演に関する要望・苦情については、レセプションとホール職員、主催者が連携を取り、状況に即し臨機応変に対処した。また、CS（顧客満足）会議やレセプションとの月1度の会議を通じて、お客様から直接聞いたご意見や要望等の情報収集・把握に努め、サービス向上や施設設備面での改善を行った。

公式ホームページにはお問い合わせフォームを設け、要望や苦情等が寄せられた場合は、事実関係を迅速に確認し、電子メール等を通じて速やかな回答を

行った。これら要望・苦情については、施設運営協議会や札幌市へ定期的に報告した。

- ▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）
 - ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。
 - ・事業日誌等
 - ・管理業務に関する諸規定
 - ・文書管理簿
 - ・各年度の事業計画及び事業報告書
 - ・収支予算・決算に関する帳簿
 - ・金銭出納に関する帳簿
 - ・物品の受払いに関する帳簿
 - ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類
 - ▼ セルフモニタリングについては、年間 3,700 名以上から回答が得られるように、コンサートの来場者や貸館利用者に対するアンケート調査を行った。調査にあたっては紙媒体のほか、WEB アンケートも活用した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。また、要望・苦情等の対応は運営協議会で報告のうえ、委員からの意見・助言を得て、改善を要するものについては対応できる体制を整えた。
 - ▼ 事業等の報告や事業評価等については、協定の定めに応じて札幌市に提出をした。

2 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

- ▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上（事故の有無などの安全衛生面を含む）
 - ▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、プロパー職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、プロパー職員については別途給与規程を定め明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っており、財団 LAN により、常に各職員が閲覧可能な状態としている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。
 - ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。
 - ▼ 産業医とともに労働災害の防止、職場環境の向上に努めるとともに、顧問弁護士とも委託契約を締結しており、心身の健康、労働・雇用関係等について相談に応じる体制をとっている。
 - ▼ 特別条項付 36 協定を締結するにあたり、法定の上限を下回る時間外労働の制限を設けている。また、定期的に開催する役職者会議で職員の超過勤務時間を確認するとともに、適正な時間外勤務の執行に取り組み、職員の健康管理の

増進及び仕事と家庭の調和の実現（ワークライフバランスの推進）に努めた。
また、札幌市ワーク・ライフ・バランス plus 企業（ステップ3）として認証を受けているほか、4年計画で策定した次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。

- ▼ 高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年（61歳）退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。
- ▼ 労働災害や通勤災害の発生はなかった。

3 施設・設備等の維持管理業務

- ▽ 総括的事項（利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入）
 - ▼ 日常における施設の維持管理については、来館者の安全を最優先に心がけ業務を行った。
 - ▼ 利用者に対しては、ホームページやパンフレット等において、必要な連絡先を記載するとともに、問合せフォームも用意することで問合せを受付できる体制を維持した。また、緊急時に対応ができるよう緊急連絡網を整備した。
 - ▼ 施設損害賠償保険は、全国公立文化施設協会で運営する公共施設用に設計されたものに加入し、万一の事故に対応可能な体制をとっている。
- ▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等）
 - ▼ 清掃や警備等の建物管理業務、電気設備や昇降機等の建物保守にかかわる設備管理業務のほか、照明・音響・レセプションистなど、専門性を要するホール業務については第三者への委託により実施した。
 - ▼ 施設内備付備品は4カ年の点検計画を作成し、計画に則って点検を行うことで適切な管理に努めた。また、オルガンやピアノ等の楽器については、専門保守業者の意見を参考にしながら適切な管理を行った。
- ▽ 防災
 - ▼ コンサートホール消防計画に基づき、7月と1月にホール職員、常駐委託業者等を対象とする法定防災訓練を実施した。
 - ・7月は夜間の小ホール公演及び小リハーサル室A利用中にレストラン厨房で出火したことを想定し、ホール職員と常駐業者(17名)による総合訓練を実施。
 - ・1月は札幌市消防音楽隊と協力し、一般市民から参加を募り、コンサート中の火災を想定した演奏会付き防災訓練を行った（参加者数333名）
 - ・火災報知器、消火設備点検については9月と3月に実施。なお、令和5年2月9日からの3年間、防火対象物点検報告特例認定を受けている。

4 事業の計画・実施業務

- ▽ 音楽鑑賞事業

▼ オーケストラシリーズ

世界トップレベルのオーケストラを招へいし2公演を実施した。

- ・ ショパン国際ピアノコンクールで日本人として 51 年ぶりに第2位を獲得した札幌出身のピアニスト 反田 恭平と、彼がプロデュースし、ソリストとしても活躍する同年代の実力派アーティストと結成した管弦楽団ジャパン・ナショナル・オーケストラを招へいし、コンサートを開催。反田氏による力強い弾き振りとオーケストラのフレッシュな演奏で観客を魅了した。
- ・ 令和4年の主催事業で好評を博したロンドン交響楽団と同楽団の新首席指揮者サー・アントニオ・パッパーノを招へいし、世界各国で活躍するピアニスト ユジャ・ワンをソリストに迎えてコンサートを開催。ラフマニノフのピアノ協奏曲とマーラーの交響曲で迫力ある演奏を披露した。

▼ ソリストシリーズ

- ・ ジャズ、クラシックなど、ジャンルの垣根を越えてソロ、トリオやオーケストラとの共演などで多彩な活躍をする国際的ピアニスト 小曾根 真を招へいし、スペシャル・ソロリサイタルを開催。オリジナル楽曲の他、ゲストに壺阪 健登を迎え、2台ピアノによるガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」などを披露した。公演翌日には札幌芸術の森と連携し、小曾根 真が講師となり「札幌ジュニアジャズスクール」の子どもたちに向けた特別ワークショップを実施し、世界的アーティストによる指導の機会を提供した。
- ・ 鍵盤音楽の歴史的研究を重ねチェンバロ、フォルテピアノ、モダンピアノを弾き分けるアンドレアス・シュタイアーのチェンバロリサイタルを開催。Kitara 所有のチェンバロで、クープランのパヴァーヌやシュタイアー自身が作曲したオリジナル楽曲などを披露した。
- ・ ピリオド楽器とモダン楽器両方の演奏で活躍するヴァイオリニスト アリーナ・イブラギモヴァと、ロン・ティボー国際コンクールで第1位を受賞したピアニスト セドリック・ティベルギアンを招へいし、デュオリサイタルを開催。ドビュッシー、プーランク、武満徹、シューマンの楽曲で長年にわたって活動を続けているデュオによる洗練された演奏を披露した。
- ・ リスト音楽院の開学 150 周年を記念して、第 27 回リスト音楽院セミナー講師3名によるガラ・コンサートを開催。ハープ、ピアノのソロ曲のほか、ハープ&ピアノ、2台ピアノなど珍しい編成でリストなどの作品を披露した。
- ・ リスト音楽院ヴァイオリン科主任教授を務め、世界で活躍するヴァイオリニスト クリストフ・バラージェティによるリサイタルを初開催。共演者には同音楽院教授のピアニスト ガーボル・ファルカシュを迎え、名手たちによる圧巻の演奏を披露した。

▼ 室内楽シリーズ

- ・ 当ホールが 2005 年から独自に招へいを続けるベルギーのカルテット ダネル弦楽四重奏団による 19 回目となるコンサートを2日間にわたり開催。1日目は出演者によるレクチャーと演奏で作品の理解を深め、2日目の公演では 20 世紀ロシア大作曲家をテーマとしたプログラムで、弦楽四重奏曲及び札幌出身のピアニ

スト 外山 啓介を迎えピアノ五重奏曲を披露したほか、冒頭には札幌大谷大学学長の千葉 潤氏によるプレトークが行われた。また、当該楽団の公演は全国のホール5館と連携して他都市でも実施した。

- ・リスト音楽院セミナーと同時期に、ハンガリーを代表する若きアーティストを紹介する公演の5回目として、リスト音楽院を卒業後、ハンガリーの歌劇場でオペラ歌手として活躍するトポラーンスキー・ラウラのソプラノリサイタルを開催。地元ハンガリーを代表する作曲家による珍しい作品をはじめオペラアリアなど多彩なプログラムを披露した。

▽ 音楽普及事業

▼ ホール開放事業 Kitara あ・ら・かると

ホール全体で、ゴールデンウィークの3日間にわたり子どもから大人まで家族で楽しむことができるイベント「Kitara あ・ら・かると」を開催した。3歳、5歳から入場できるコンサートや、誰でも鑑賞可能な無料のロビーコンサート、市内中学校の吹奏楽部と合唱部による合同コンサートのほか、ホール見学ツアー、楽器づくり体験、また、新企画として地元調律師と連携して手作り小型オルガンに触れる体験コーナーなど、ホールや音楽に気軽に親しんでもらう機会を提供した。

▼ オルガン事業

- ・国内最大級の規模を誇るパイプオルガンと、専属オルガニスト制度を活用し、土日、祝日に低料金で市民が気軽に楽しめるコンサートを6公演実施した。
- ・専属オルガニストのデビューリサイタルから、市内高校合唱部との共演による「〈JAL presents〉クリスマスオルガンコンサート」など、多彩なプログラムを実施した。
- ・「Kitara のバースデー」では、赤ちゃんを含む未就学児が入場可能な〈まずはここから公演〉とオルガン好きな方に向けた〈もっとじっくり公演〉の2公演を実施し、幅広い層を対象にオルガンの魅力を伝えた。
- ・令和6年度から実施した冠スポンサーによるオルガン公演の「〈JAL presents〉クリスマスオルガンコンサート」では、冠スポンサーである JAL ベルスターによるハンドベルのプレコンサートを開催した。

▼ 札幌オーケストラシリーズ

道内唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団と連携し、「きがるにオーケストラ」、「沼尻 竜典作曲 歌劇『竹取物語』」、「Kitara のクリスマス」、「Kitara のニューイヤー」の4公演を実施した。特に、「竹取物語」は、びわ湖ホール、iichiko 総合文化センター、やまぎん県民ホール、当ホールの4館での共同制作でプロジェクションマッピングを駆使した演出による日本語のオペラを上演する新たな試みとなった。

また、財団他施設との連携として、市民交流プラザとオペラに関する公演を対象としたスタンプラリー「オペラではしごキャンペーン」を実施し、オペラの拡大・普及に努めた。

▼ Kitara アフタヌーンコンサートシリーズ

気軽に音楽を楽しんでもらうため、土日や休日に低料金で楽しむことができるコンサートを4公演「アンセットシス～演奏と創作、新進気鋭のピアノデュオ～」、「ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット」、「若山社中～里神楽で魅せる江戸の華やぎ～」 「新野 将之 パーカッションコンサート～知っているようで知らない打楽器の世界～」を実施した。内容もクラシック、ポピュラー、里神楽まで、幅広い内容とし、どなたでも楽しめる公演とした。

▼ 地元音楽家・音楽団体との活動支援・連携事業

- ・北海道教育大学及び札幌大谷大学と連携し、各校から推薦を受けた卒業生・在校生による「若い芽の音楽会」を実施した。ソロやアンサンブルなど、優秀な若手演奏家による演奏を披露した。
- ・市民から公演企画を公募する「Kitara アーティスト・サポートプログラム」では、4団体の応募があり、室内オーケストラとバレエダンサーのコラボレーションによる公演、ピアノ演奏と「愛」にちなんだお話付き公演の2企画を採択し、地元音楽家たちが創意工夫を凝らしたコンサートを開催した。
- ・札幌音楽家協議会とのプロジェクト「札幌の音彩（ねいろ）Ⅱ」では、国内の様々なオーケストラと共演を重ねる札幌出身の横山 奏の指揮で室内オーケストラと女声合唱の演奏を実施した。

▼ 社会包摂事業

- ・0歳からのコンサート

全国で子ども向け公演の企画・出演実績のあるピアニスト 中川 賢一が考案した絵本の朗読と演奏を合わせたバラエティ豊かなプログラムで、0歳から鑑賞可能な親子で楽しめるコンサートを開催した。チケットは完売し、当日は親子連れで大変賑わった。

- ・令和6年度障がい者向け文化芸術体験事業（子どものための Kitara 参加型音楽会）

身体障がい、知的障がい、聴覚障がいのある児童を対象にピアノ、フルート、パーカッションの演奏に歌を交えた音楽会を3公演実施した。障がいの違いや程度に合わせて、手話を交えたり、楽器に触れて振動を感じたり、体全体で音楽を楽しむコーナーを作るなど内容を工夫した。また、指導者の育成も視野に入れ、地元演奏者及び大学関係者の見学会も実施した。

▽ 教育・人材育成事業

▼ エデュケーションプログラム

子どもたちの感性を伸ばし能力を引き出す事業として、人気の高い未就学児童から入場できるコンサートのほか、札幌市教育委員会と連携して Kitara ファースト・コンサートを実施するなど、成長に応じて継続してホールに足を運んでもらえるようなプログラムを展開した。

▼ アウトリーチ事業

専属オルガニスト及び地元演奏家が移動可能なポジティブオルガンとともに

赴き、生の音楽の魅力と楽しさを伝える事業を2小学校（平岡南小学校、小野幌小学校）で実施した。小野幌小学校では、札幌芸術の森と連携し、野外美術館の紹介や森の動物にちなんだ作品を演奏し、音楽と美術を関連付けたプログラムを提供した。

▼ セミナー事業

ハンガリーの伝統ある世界的な音楽教育機関「リスト音楽院」と連携し27回目となる「リスト音楽院セミナー」を開催した。世界的な音楽家による指導を直接受けられるセミナーとして全国各地からの参加があった。ピアノコースに加えて、今年はヴァイオリンコース、ハープコースを新設し、道内を中心として幅広い年齢層の参加があった。セミナー最終日には、講師の推薦を受けた受講生が出演するコンサートを開催し、2026年にブダペストで開催されるコンサートに派遣される最優秀受講生のほか、審査員特別賞1名が選出された。

▽ 全国ホール等とのネットワーク事業

- ・びわ湖ホール、iichiko 総合文化センター、やまぎん県民ホール、当ホールの4館の共同制作公演で、「沼尻 竜典作曲 歌劇『竹取物語』」を開催した。
- ・第24代札幌コンサートホール専属オルガニストのウィリアム・フィールディングを派遣し、サントリーホール及びザ・シンフォニーホールでオルガンコンサートを実施した。
- ・第25代札幌コンサートホール専属オルガニストのファニー・クソーを派遣し、武蔵野市民文化会館、京都コンサートホールでオルガンコンサートを実施した。
- ・サントリーホール、神奈川のサルビアホール、アクロス福岡、武蔵野市民文化会館、滋賀のびわ湖ホールの5館と連携し、ダネル弦楽四重奏団の日本ツアーを実施した。
- ・ハンガリーの俊英シリーズで来日したアーティストと地元音楽家との交流を図るため、札幌音楽家協議会、ハイメスと連携し国際交流コンサートを開催した。
- ・すみだトリフォニーホール、京都コンサートホール、アクロス福岡、所沢ミュージズ、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）と年2回、コンサートホール企画連絡会議を開催し、情報交換を行った（7月：新潟、2月：東京）。

5 施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

		R5 年度実績	R6 年度計画	R6 年度実績
大ホール	件数(件)	277	297	293
	人数(人)	246,057	315,000	273,417
	稼働率(%)	83.7	86.0	85.9
小ホール	件数(件)	251	260	254
	人数(人)	49,501	60,000	44,565
	稼働率(%)	71.2	76.0	74.3
大リハーサル室	件数(件)	299	284	302
	稼働率(%)	76.7	73.5	78.8
小リハーサル室 A	件数(件)	295	221	326
	稼働率(%)	73.2	58.5	78.8
小リハーサル室 B	件数(件)	381	287	401
	稼働率(%)	86.2	71.0	90.0
総入場者数(人)		295,558	375,000	317,982

▽ 不承認 0 件、 取消し 16 件、 減免 0 件、 還付 11 件

▽ 利用促進の取組

- ▼ 過年度から継続して施設の空き状況のホームページ公開やリハーサル室の WEB 申請受付を行ったほか、老朽化や劣化が目立つ備品の更新を行い、令和 6 年度は大ホール保管分の演奏者用椅子、コントラバス椅子、指揮台 1 台の更新を行った。

6 付随業務

▽ 広報業務

- ▼ 公式ホームページ、広報誌「KitaraNEWS」等を活用した情報発信

公式ホームページでは施設や公演、チケットの情報はじめ、事業を詳しく紹介する特設ページを公開し、集客増加を図った。また、ウェブアクセシビリティは適合レベル AA 準拠を達成している。

令和 5 年度にリニューアルした広報誌「KitaraNEWS」では、引き続き、市民に関心を持ちコンサートに足を運んでもらえるよう出演者へのインタビュー記事等を掲載し、情報発信に努めた。

ホームページアクセス件数：887,568 件

KitaraNEWS 発行部数：のべ 144,000 部（年 6 回発行）

- ▼ より多くの市民に届く広報展開

市民に目が届きやすい、テレビや新聞等のマスメディア及び地下鉄車内広告を利用して PR を行った。また、ラジオ番組では職員自らが情報発信者となり、事業の魅力をアピールした。

比較的若年層の利用が多い公式 SNS アカウント (X、Instagram) 及び Kitara アプリも積極的に活用して、幅広い世代に向けた情報発信を行った。

子ども向け事業については、札幌市小中学校校長会、札幌市 P T A 協議会に協力を依頼し市内小中学校へちらしを配布したほか、小学生向けの新聞への広告掲載を行った。

また、市役所広報番組及び市内で開催される観光イベントと連携し相互 PR を実施した。

主な広報実績

- ・テレビ CM 放映：4 回
- ・ラジオ番組での PR：12 回（月 1 回放送）
- ・新聞広告掲載：2 回
- ・地下鉄駅構内電照広告の掲出（年間）
- ・地下鉄ドアツインステッカー掲出：2 回
- ・地下鉄車内ドア横額面ポスター掲出：3 回
- ・地下鉄駅構内ポスター掲出：24 回
- ・SNS 広告：11 回
- ・市内小中学校へのちらし配布：小学校 7 回 中学校 9 回
- ・市内小学生全員に配布される新聞への広告掲載：2 回
- ・札幌広報番組等での PR：3 回

（「いい人いい街#まいにち金メダル」、「BRUTUS×札幌発の観光 Web マガジン」、札幌市観光・MICE 推進部の SNS アカウント「Visit Sapporo」）

- ・市内で開催される観光イベントと連携した広報：2 回
（ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo、さっぽろ雪まつり）

▼ 財団他施設との広報連携

相互の施設でのちらし配架のほか、市民交流プラザとは「オペラではしごキャンペーン」の事業連携を通じて、公演会場でのブースの設置等、共同して PR に努めた。また、KitaraClub 会員へ他施設の公演ちらしを送付、芸術の森美術館入館料の優待割引を設ける等、新たなファン層の拡大を図った。

▼ ホールスポンサー制度

ホールスポンサー区分及び特典の見直しを図り、ゴールドスポンサーはオルガン公演への企業名の冠を付ける特典を新設した結果、ゴールドスポンサー 2 社の協賛をいただくこととなり、事業の収支改善に寄与することができた。

また、冠オルガン公演では、スポンサーと一体となった公演演出も行うことができ、コンサートに新たな魅力を付加することができた。

(R5) (R6)

ゴールドスポンサー（協賛金 100 万円）：0 社 → 2 社

シルバースポンサー（協賛金 50 万円）：7 社 → 5 社

▼ 専属オルガニストの配置

リヨン国立高等音楽院より推薦を受けたファニー・クソーを第 25 代札幌コンサートホール専属オルガニストとして採用し、ホールの主催公演や外部公演への

出演に加え、教育事業にも参画した。

▽ その他コンサートホールの管理業務に付随する一切の業務

▼ 会員組織の運営

(ア) KitaraClub(有料)

友の会組織「KitaraClub」会員に向けて主催事業のチケット先行販売や割引等の特典提供を行い、チケット販売を促進した。また、人気の高い公演の先行販売特典の周知を図った入会促進 PR も行い会員増加に努めた結果、前年度比で 270 件の入会増があった。

(R6:新規入会 前期 556 件／後期 97 件)

(R5参考:新規入会 前期 275 件／後期 108 件)

(イ) Kitara アプリ会員(無料)

主催事業チケット発売情報をはじめ、施設に関する情報、主催事業やクラシックにまつわるコラムを配信。毎年 2,000～2,500 件の入会があり、会員数は 1 万人を超えている。また、より特典内容が充実している有料会員制度の魅力について PR を実施した。

(R6:新規入会 2,451 件)

(R5参考:新規入会 2,068 件)

▼ 秋の中島公園コミュニティ・フェスタ

中島公園の魅力を高める取り組みとして、札幌市公園緑化協会や札幌市みどりの推進部、中島公園周辺の施設や近隣の事業者と中島公園魅力アップコンテンツを試行、ホールの前庭を活用して、キッチンカー等の出店に協力した。

7 利用者へのアンケート、利用者等からの主な意見、要望等

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	▼ 一般来館者・施設見学会参加者 施設に関するアンケート用紙をエントランスホールに設置、一般の来館者（演奏会入場者以外も含む）を対象として、来館目的や回数、ホールで聴いてみたい音楽ジャンル、施設への要望などについて調査した。施設見学会でもアンケートを実施し、来館経験や見学会への参加理由を調査し、施設への興味関心等を把握した。 回答数 250 件 ▼ 貸館利用者 大・小ホールやリハーサル室などの貸館利用者・主催者には、アンケート用紙を手渡しすることとし、顧客満足度や意見・要望を収集した。 回答数 10 件 ▼ 主催公演入場者 主催公演についても入場者にアンケートを実施し、公演内容の評価などを把握し、今後の主催公演の企画に生かしている。 回答数 3,757 件
結果概要	・施設の設備、スタッフの対応、主催事業などに対して前年度に引き続き高い評価であった。 ▼ 一般来館者・施設見学会参加者 エントランスホールに設置しているアンケートに回答した方、及び施設見学会参加者の総合的な満足度は96.4%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接客に対する満足度は96.4%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）であった。

	▼ 貸館利用者 大・小ホールやリハーサル室などを利用した貸館利用者・主催者からのアンケートでは、総合的な満足度は100%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接客に対する満足度は90%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）であった。 ▼ 主催公演入場者 主催公演入場者の施設に対する総合的な満足度は97.2%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接客に対する満足度は97.0%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）であった。 ▼ 全体では、施設の総合的な満足度は97.1%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接客に対する満足度は96.9%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）の高評価であった。
利用者からの意見・要望とその対応	お客様からのお声が多かった鑑賞マナーについて、マナーの向上を啓発する動画を作成し、エントランスホールにて上映を開始した。今後も皆様が快適に楽しめる鑑賞環境を維持していきたい。

Ⅱ 管理業務に係る収支決算

▽ 収支一覧

(千円)

項目	R6 年度計画	R6 年度決算	差(決算-計画)
収入	966,269	990,211	23,942
指定管理業務収入	921,564	943,309	21,745
指定管理費	606,073	632,301	26,228
利用料金	173,347	179,794	6,447
その他	142,144	131,214	▲ 10,930
自主事業収入	44,705	46,902	2,197
支出	1,012,055	1,002,900	▲ 9,155
指定管理業務支出	969,436	962,435	▲ 7,001
自主事業支出	42,619	40,465	▲ 2,154
収入-支出	▲ 45,786	▲ 12,689	33,097
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 45,786	▲ 12,689	33,097

▽ 説明

- ▼ 指定管理業務収入における指定管理費について、令和6年4月～令和7年3月の光熱費高騰および人件費の高騰による管理費の改定により、26,228千円の増加となった。
- ▼ 指定管理業務収入における利用料金収入については、大ホールの施設利用料金が計画よりも6,542千円増加したほか、各リハーサル室の利用の増加により計画よりも1,362千円増加するなど、合計で計画対比6,447千円増加した。
- ▼ 指定管理業務収入におけるその他収入については、チケット等販売収益等が増加した反面、令和6年度は文化庁の文化芸術振興費補助金による助成金が申請額より14,067千円減額となったことから、計画対比で10,930千円減となった。
- ▼ 自主事業収入については、他都市参加に伴うKitaraファーストコンサート補助金増加等から計画対比で2,197千円の増加となった。
- ▼ 指定管理業務支出については、SNS広告の導入等により、広告料が削減できたことから、計画対比で合計7,001千円減少となった。
- ▼ 自主事業支出については、修繕が想定よりも少なかったことから、修繕費が計画対比622千円減少したほか、商品購入費が764千円減少するなど、計画より全体で6,520千円減少した。

Ⅲ 管理に関する協定書 第 3 3 条に規定する自主事業の実施状況

1 飲食・物販事業

▽ 売店事業

売上高 8,039 千円

▽ 自販機事業

売上高 1,649 千円

▽ レストラン事業

貸館主催者への利用促進及び Kitara アプリ会員へのメニュー配信を積極的行なったほか、期間限定メニューやカフェテリアでのアルザスワインの販売など集客増に努めた。

また、レストランの売上等について定期的に確認し、集客・活性化等について意見交換を行っている。

2 自主事業その他

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

- ▼ 委託業務 67 件を市内に事業所を持つ企業に発注した。
- ▼ 障がい者を 1 名雇用し、福祉施策に取り組んでいる。
- ▼ 障がい者福祉支援施設よりオリジナルグッズを仕入、販売した。